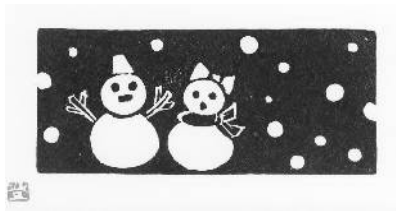


貝坂倶楽部

—季刊 2015 新年号 通巻第 31 号—



樋口一葉にゆかりのある平河町一丁目。
江戸名所図会には「この地は昔から甲州
街道にしてその路傍にありし一里塚を土人、
甲斐塚とよびならわせしとなり」とある。貝
塚であったのが現在定説となっている。



発行 NPO つくくらぶ

目次

寄稿者一行紹介

スイスの国防政策	藤原 英郎	3
「端っこ」の話	田村 徹	5
蒸気機関車の模型製作、そして新幹線の実現	高松 良晴	8
東海道新幹線50周年、鉄道新世紀の幕開け	高橋 郁郎	14
阿武隈川だより：忘れられない元旦	渡辺 成典	16
Tea Time: 次に来るのは何！？		18
名曲喫茶	関 敦	20
立てば芍薬座れば牡丹歩く姿は百合の花	高松 泰代	22
転載：「きょうよう」と「きょういく」	水谷 謹人	25
人形あれこれ	藤原 昌子	27
サウディアラビア訪問記（5）	藤井 能成	29

寄稿者一行紹介

藤原 英郎	銀行員、現役時代に英国、スイスに勤務
田村 徹	研究員→国連環境計画局→大学教授→環境コンサルタント
高松 良晴	国鉄マン、鉄道建設改良工事に従事
高橋 育郎	国鉄マン、日本童謡協会会員、日本橋「心のふるさとを歌う会」代表
渡辺 成典	民生委員
関 敦	非鉄金属メーカー機械技術者
高松 泰代	NPO つくしくらぶ 理事長
水谷 謹人	新聞編集長、大学講師
藤原 昌子	NPOつくしくらぶ 副理事長
藤井 能成	化学系技術者、分離膜研究開発に従事

スイスの国防政策

藤原 英郎

ここ数年にわたって、早稲田大学のオープンカレッジに通っている。いろいろなコースがあるが、週に1から2回、主に歴史関係の講座をとっている。昨年のことだが、スイス関係講座に出席した。前後2回に分けて、スイス全土をカバーするもので、有意義だった。その際、昔チューリヒにいたことがある旨の話をしたところ、先生から、その時のことを何か話してもらいたいとのことであった。そこでしばらく考えたが、聴講者は20から30名程度いたが、金融の話には、興味がなさそうなので、滞在当時に興味を持っていたスイスの国防政策の話をした。以下、その時の話である。

日本で翻訳本があり、版を重ねている本がある。これはお勧めであり、ぜひ読んでもらいたい。原書房から出版されている『民間防衛』（スイス政府編）である。そのまえがきを一部、引用してみたい。「国土の防衛は、わがスイスに昔から伝わっている伝統であり、わが連邦の存在そのものにかかわるものです。そのため、武器を取りうるすべての国民によって組織され、近代戦用に装備された強力な軍のみが、侵略者の意図をくじきうるものであり、これによって、われわれにとって最も大きな財産である自由と独立が保障されるのです。今日では、戦争は全国民と関係を持っています。国土防衛のために武装し訓練された国民一人一人には、『軍人操典』を与えられますが、『民間防衛』というこの本は、わが国民全部に話しかけるためのものです。この2冊の本は同じ目的を持っています。つまり、どこから来るのであろうとも、あらゆる侵略の試みに対して有効な抵抗を準備するのに役立つということです。」

スイスは国民皆兵である。具体的にいえば、20才から50才までの男子が兵役に服する。例外はない。初年兵は厳しい訓練があり、通常は数ヶ月かかる。次第に短くなり、定年の頃には1週間程度となる。チューリヒの現地法人では次第にスイス人の社員の人数が増加していったが、毎年年末になると翌年1年間のスケジュールが話題となったものである。ある時、山岳地帯を車で通りかかったが、そこでは大勢の初年兵が訓練に励んでいた。通常は通らない道であったが、そんなところで訓練しているのだと分かった。

スイス人はそれぞれが仕事に就いているので、軍隊における役割にもそれぞれがある程度は反映している。例えば、電気工事を仕事にしている人には、電線などを引く仕事である。面白いのは、重機械の扱いに慣れているので、農

民に戦車の運転を任せているという例があった。スイス人の弁護士に軍隊では何の仕事をしているのかと聞いてみたことがある。法務将校という答えだった。スイスには少数ながらジェット機がある。時々、山間を訓練しているが、主にスウェーデン製である。このジェットパイロットだけが玄人の軍人だそうだ。

スイス空軍といえば、飛行場は徹底した分散体制である。スイスは山が多いが、山と山の間には平地があり、狭いながらも小さな飛行場を作れる。無数の飛行場がスイス全体にあるが、一つ一つの飛行場は、ほんの数機を収容しているにすぎない。このような分散体制が、スイスには適しているであろう。

高速道路は多い。しかも無料である。よく自動車を活用した。最初は自動車を運転するだけだった。しかしあることに気がついた。トンネルが多い上、一方が谷にもう一方が山肌になっているところが多いのだが、そんなところに、地面の上に丸い杭が埋め込まれているのが見える。しかも道幅一杯に敷き詰められている。これが何を意味するのかは、最初は分からなかった。しかし識者に聞いてみて、これは車両なかんずく戦車止めの柵であることを知った。物陰から操作すると、丸い杭がによきによきと上に出て、しかも高さ不均等になるのである。これにより車両や戦車は動けなくするという仕掛けである。トンネルや橋の前後、一方が谷にもう一方が山肌のところをねらっている。スイスのような山国に適した装置である。地の利を生かしたスイスならではの戦略であり、感心した。ドイツのような平坦なところでは、まったく役に立たないものである。

スイスではドイツ語、フランス語、イタリア語が公用語とされている。この他ロマンシュ語が国語とされており、紙幣などはこの4カ国語が表記されている。切手は古代ローマ語に由来する Helvetia と表記されている。軍隊では言語がどうなっているのかが次の疑問だった。答えは師団毎に異なるというものだった。

1939年8月30日にスイス連邦議会は、アンリ・ギザン将軍をスイス連邦軍総司令官に任命した。同将軍はフランス人であった。ナチス・ドイツ軍は、ドイツ語を話す人々はドイツ人だと宣言し、スイス合併を意図した。スイスはこれに対して、フランス人をもって対抗した。私がいた当時は、ドイツとの国境をなす北のライン川沿いのスイス領に戦跡が残っており、コンクリート製の戦車止めなどがあった。

「端っこ」の話

田村 徹

国の端っこには境界線があり、国境をめぐる隣国との紛争が絶えない状況が続いている。日本でも南の端っこにある尖閣島問題、北の端では国後、択捉島問題が連日、新聞誌上を賑わせている。

技術者の端くれの僕はこの機会に「端っこ」について考えていることをご紹介したいと思います。

そもそも、小さいころから端っこが好きで、全校集会が大講堂で行われても必ず端席を選んでいました、現在でもそのDNAが消えていないのか駐車場でもまず、端っこに空きがないか確かめています。

住宅地についても、角地と呼ばれる場所に建つ不動産物件は価格が高いことが多いし、マンションでも角部屋に人気がある様ですので、あながち僕の性格が特異だとは思っていません。

食に関しても、カステラ、パン、焼き豚、巻きずしなどの端っこには原材料の旨味がぎゅっと凝縮されている感じは何とも言えないと思います。

子供時代にもっとも好きだったのは、兄弟の誰かが40度ていどの高熱を出さないと母親が買ってくれなかったカステラの周囲の紙に付着した茶褐色のカステラと析出した砂糖の結晶を前歯でしごきながら食べた時の美味しさ、歯さわりの良さは今でも忘れることが出来ません。現在では安価なカステラが出回り日常的に楽しんでいます、桐箱に入ったカステラの端っこの旨さは味わえませんので全く別物の様な気がします。

我が家では、朝食はもう70年近くパン食ですが、食パンには少し拘りがあり、トーストするときの焼け具合は塩味の薄い食パンではこんがり焼くのですが、食パンの端では両面で焼き具合が異なり端部分はよりこんがり焼けますので、程よいカリカリ感が味わえてとても美味しく感じます。

焼き豚の端っこはタレの旨味が肉に存分に浸み込んでいる為、濃い味の好きな僕には外せない逸品です。焼き飯にこの逸品を加えると2ランクくらい味が向上するように感じます

巻寿司の端っこは具材がはみ出ていることが多いので、同じ一切れでも内容が濃い一品で、男兄弟3人の中で育ったものですから、生存競争に勝つための少し貧乏くさい発想かも知れません。

旅行でも、各地の灯台を訪れるのが好きで出来る限り訪れるようにしています。中でも、フロリダ半島の最先端でキューバをま近に望める場所はとても印象に残っています。

フロリダ市内のホテルからレンタカーで一路南を目指すのですが、途中立ち

寄ったガソリンスタンドで道を尋ねた時、Follow the sun と答えられた時、参った、ここはやはりアメリカの明るい国民性に触れられたと感動しました。途中、海岸通りを走るのですが、中でも圧巻は100マイルブリッジと彼等が呼ぶ橋を渡るときの海の美しさはこの世のものと思えない素晴らしいものでした。途中、1メートルくらいもあるペリカンが沢山居ましたが、あの大きな体で空を飛ぶのは、自然界のジャンボ機そのものでした。やがて到着したフロリダ半島の先端にはその頃日本ではまだ、一般的でなかった魚類と直接触れ合うことの出来る水族館、あの文豪ヘミングウェイの居宅、いきつけのバーが有り、彼の愛した釣り道具などが展示され、高校、大学入学試験の英語訳問題に頻繁に出てきて僕を苦しめた文章がこの机で書かれたのかと思うと大変興味があるものでした。



(キューバまで90マイル 最南端を示すモニュメント インターネットから引用)

音楽の世界でも海の端っこ、つまり岬を歌った名曲が沢山あります。歌謡曲では「岬めぐり」「襟裳岬」「竜飛岬」「知床慕情」等枚挙に暇がありません。洋楽では「ラメール」「Old Cape Cod」が好きですが、後者に関して以前の原稿で実際に現地を訪れた時の感想を拙文でご紹介しましたが、このJAZZの名曲の素晴らしい歌詞は、この街の素晴らしさを上手く表現していると思いますので、僕なりの日本語の要約を次に、ご紹介します。

「潮風好きなあなたがきっと気に入られる静かな海辺の街、それはケーブコッドです。一度訪れるとたちまちこの街と恋に堕ちることでしょう。何マイルも続く緑の木立が真っ青な青空に映えた美しい街、それはケーブコッドです。教会の鐘の音が鳴り響き、曲りくねった道が家に続く美しい街、夜には

月光に照らされたケーブルコード湾の美しさには皆が恋をするでしょう」と軽快なメロディに乗せて歌われています。

この端っこも、先頭を意味する最先端技術は英語で「cutting edge technology」と言うそうですが、直訳するとナイフのような鋭敏な刃先を更に切り裂く精緻な技術と考えればなるほどと思わされます。今年には青色ダイオードの発明で3人の科学者が受賞され、日本人として嬉しい限りですが、この中のお一人は企業の中で自分が出願した特許の権利の有り方に関して、一石を投げられたのは大変勇気のある行動で科学技術者の端くれである僕にも頭に大きな一撃を与えてくれた痛快の一事でありました。

但し、その後、在籍していた企業と和解を呼びかけたものの未だに上手く関係修復できていないのは大変残念です。

蒸気機関車の模型製作、そして、新幹線の実現

高松 良晴

(1) 蒸気機関車の模型製作

安政2年(1855年)8月、佐賀藩は、ペリーと同じ頃来航したロシア使節のプチャーチン少将がみせた蒸気機関車模型をモデルに、自ら蒸気機関車模型を製作し運転した。当時18歳だった大隈重信が、陪観を許された藩校弘道館の一員として見学している。

大隈は、後に、「幕藩体制を廃し全国の人心を統一するには、交通の不便を改めねばならない。また、封建的割拠の思想を打ち砕くには、余程人心を驚かす事業が必要である。何かよい工夫がないものかと考えているときに、(伊藤博文、井上勝等の)鉄道の議論を聞き、鉄道を起こすことを企てた」と述べている。その結果が、明治5年(1872年)10月、新橋・横浜間の我が国初の鉄道開業であった。

どうして、未だ鎖国の時代に、佐賀藩は、プチャーチンの蒸気機関車模型を一目見て、直ちに、自ら作りあげることが出来たのか。

その2気筒の蒸気シリンダーを有する銅・真鍮製の雛形を試作したのは、佐賀藩製錬方であった。

天保11年(1840年)に起こったアヘン戦争で、清がイギリス軍に大敗したことを知って、日本国内でも対外的危機意識が高まった。

福岡藩とともに長崎港口の警備にあたっていた佐賀藩の10代藩主鍋島直正は、佐賀藩領の長崎港外に台場を築くことにした。砲台に鉄製の鉄砲を備え付けるため、嘉永3年(1850年)7月に佐賀城下で我が国初の反射炉の建設が始まった。

幕末の日本における鉄製鉄砲の製作-反射炉の築造は、天保7年(1836年)高島秋帆等が輸入したオランダ本I冊の翻訳から始まっている。

オランダの陸軍少将で、王立鉄製鉄砲鑄造所長であったヒュゲエニンの著書「ロイク王立鑄造所における鑄造法(1826年刊)」である。

同書には、高炉や反射炉や鉄砲の鑄造、砲身の穿孔などの詳細な図解があり、また鉄砲の製造法のみならず鉄の性質や製錬法なども解説され、製鉄技術の参考書となっている。佐賀はじめ幕末日本各地で作られた反射炉は、この書に拠るものであった。

現存する翻訳書は3種あるが、この書の翻訳にあたっては、佐賀藩伊東玄朴、韭山代官江川英龍が関り、水戸の徳川斉昭、薩摩の島津斉彬らも翻訳情報を交わしていることから、この翻訳作業が、単に佐賀一藩の事業でなく、海岸防備に関心の深い諸藩の要請によって行われていたことが伺われる。

嘉永6年(1853年)ペリーが浦賀に来航すると、幕府は江戸湾の防備のため、品川沖に台場を築くことし、その大砲を佐賀藩に注文している。建前としては、幕府は鎖国を、薩摩は攘夷を主張しながらも、目は外国に向き、ともに海外技術の吸収に努めていたのである。

佐賀藩の製錬方は、嘉永5年(1852年)に発足している。佐野常民を主任とし、田中久重等の藩外からの優秀な技術者や学者を招いて様々な新技術の研究開発を行った。その成果は慶応元年(1865年)に三重津で完成した佐賀藩製蒸気船凌風丸へと結実して行く。

なお、幕府の砲艦で、幕末に実用となった唯一の国産蒸気船千代田形艦は、蒸気汽缶の組み立てを佐賀藩に鉄板と設計図を引き渡して依頼し三重津で完成し、慶応2年(1866年)に竣工している。

かかる状況下での、腕に覚えのある製錬方による新しい技術への好奇心と挑戦が、蒸気機関車の模型製作へと駆り立てたのだった。

製錬方の一人、田中久重は、久留米で和時計の最高傑作と言われる万年時計を製作し、からくり儀衛門と呼ばれた発明家・技術者であり、蒸気船の開発に携わり、さらに、その後、明治8年(1875年)には、工部省から受注した電信機開発の受注拡大に伴い、東京銀座に東京芝浦電気(重電)の源流となる田中製造所(芝浦製作所)を設立している。

新橋・横浜間開業時には、輸入レールの上を外国人が輸入蒸気機関車を運転していた。国産化の始まりは、レールは官営八幡製鉄所の創業開始、蒸気機関車は井上勝等が設立の汽車製造(株)1号機であり、ともに明治34年(1901年)のことであった。なお、レールの生産が品質面で安定し、完全国産化となったのは昭和3年(1928年)頃である。

蒸気機関車が走り始めてから80年余り、昭和30年(1955年)には、日本国有鉄道(国鉄)所有の蒸気機関車数は4,897両に達していた。国鉄は昭和35年(1960年)より、動力近代化施策として、15年間で全ての蒸気機関車を廃止する計画をたて着手した。計画通り15年目の昭和50年(1975年)12月に、営業用車両の蒸気機関車牽引は全てなくなり、翌年には構内入替車両の蒸気機関車扱いも消え去った。

(2) 電気の発明・普及

幕末から明治の初めの夜は、かすかな行灯・ローソクの灯りが頼りの暗闇の日々であった。エジソンが白熱電灯を実用化し、ニューヨークで、世界で

初めて電灯事業を開始したのが、1881年、明治14年のことであった。4年後の明治18年（1885年）には、日本初の白熱電灯が東京銀行集会所で点灯されている。すでにその2年前、東京・銀座にアーク灯が点灯され、人々は明るく輝く夜景に歓声を上げていた。

明治16年（1883年）、東京電灯の創立趣旨書には、「電気を使って至極便利な光線を作り、暗夜を白昼になすのは千載の一時歓喜」と書かれていた。東京電灯は、明治20年（1883年）から日本橋茅場町から直流送電を開始した。しかし、需要の高まりに交流送電への転換が余儀なくされ、明治26年（1893年）に200kwの交流発電機を備え、日本の大容量発電機の大先駆けとなった浅草火力発電所の建設にかかり、3年後に完成させている。

東京電灯は、明治23年（1890年）春、東京上野公園で開かれた第3回国勧業博覧会において、藤岡市助技師長がアメリカより持ち帰った路面電車2両で、公園内の桜ヶ丘・両大師間500mで、公開試運転を行っている。

そして、明治28年（1895年）、京都電気鉄道が、田邊朔郎が完成させた琵琶湖疏水からの蹴上発電所の電力を使用して、東洞院（京都駅）・伏見（京橋）間で、我が国初の電車（路面電車）の営業運転を開始している。

電気の普及は、路面電車の出現を呼び、さらには高速電車のネットワークを形成させ、現在の鉄道網へと発展させる原動力となった。

藤岡市助は、日本のエジソンとも言われ、明治23年（1890年）岩国同郷の三吉正一とともに、後に東芝（弱電）の源流となる白熱電球開発のための白熱舎（東京電気）を創立している。そして、明治44年（1911年）安価で丈夫な国産タングステン電球の開発に成功し、また、現在の東海道新幹線にあたる高速鉄道のプランを描いてもいた。

（3）新幹線の実現

新幹線の実現は、それまでに開発実証された、多岐にわたる鉄道技術を、超高速運転という一つのコンセプトにまとめあげたことにある。

昭和29年（1954年）7月に、国鉄鉄道技術研究所客貨車研究室長三木忠直が、「超特急列車の一構想」との論文を発表した。それは、戦後に築かれた鉄道技術の蓄積と世界の鉄道最高速度を参考にして、「狭軌でも、車両を軽量化し、重心を低くして流線型にすれば、東京・大阪間4時間半の特急は十分可能で、都心へのアクセスを考えると飛行機に対抗できる」との趣旨であった。三木の研究は、狭軌（1,067mm）で時速150～160kmを想定していたが、広軌（標準軌1,435mm）にあてはめれば時速200kmに相当するものだった。

論文の著者、三木忠直は、海軍航空技術廠で銀河・桜花の機体設計を担当していた。終戦直後、鉄道技術研究所は、大勢の多士済々の研究者を受け入

れ、定員 500 名足らずから 1,500 人近くに増えたという。

鉄道屋だけの世界に、発想の違う元飛行機屋などが数多く入った効果は大きかった。列車動揺を研究した松平精（後に研究所長）は、鉄道技術研究所に勤めはじめた頃の印象として、「海軍で零式艦上戦闘機の振動問題に取り組んできたので、車両の振動問題をやりたい。そこで、多くの関係資料を見たが、車両振動に対する理論解析は皆無でした。これなら自分のやることが一杯ある、と思った」と述べている。

終戦からの昭和 20 年代、根っからのぼっぼ屋と軍人上がりの混成チームが、鉄道高速化に向けて、多くの技術開発を積み重ねて行った。これまでの鉄道には見られなかった新しい発想のものだった。

列挙すれば、コンクリート枕木と継ぎ目のないロングレールの開発、自動検測車（マヤ車）による軌道状況・電気設備の管理点検、送電ロスの少ない交流電化の採用、集電装置（パンタグラフ）の改良、地上信号の確認から車内信号の確認とした列車集中制御装置の設置、高速車両の蛇行動解析、乗り心地のよい空気バネの開発、機関車牽引の客車列車から動力分散方式の長距離・長編成電車である湘南電車 80 系・小田急ロマンスカー・東海道線特急こだま号 181 系などの実現、風洞実験による車体形状の決定等々であった。

新幹線の安全な高速運転を支える技術面を構成するパーツ、ひとつひとつが揃ってきていた。そして、昭和 39 年（1964 年）10 月、東海道新幹線東京・大阪間が開業となった。

（４）日本の技術を支えるもの

交通の視点からみると、江戸幕末までの歩き続けるだけの時代が鉄道という公共輸送機関の出現により、日本という国内を誰も往き来できる時代となった。まさに、大隈重信が意図した幕藩体制を覆すものとなった。外国との窓口であった佐賀藩が目指したのは、国防としての大鑑巨砲の製作ではあったが、その製錬方の職人達の好奇心が目的外の蒸気機関車の模型を作らせ、それを陪観し印象づけられた大隈が、後に大蔵卿の立場として鉄道建設を財政的に支援することとなる。

ただ、仮に好奇心があっても、外国文献を翻訳し読み新しい知識を吸収し、自らこつこつと製品を作り出す腕のある職人達がいなければ、なにごととも実現するものではない。佐賀藩製錬方は、好奇心、判断力、実行力を兼ね備えた技術集団であったと云える。

明治 14 年（1881 年）、ニューヨークでのエジソンによる電気の実用化は、闇夜を白夜とし、制御し易い動力を提供し、人々の生活を一変させるものであった。ただちに日本各地で電力会社が設立され、4 年後には東京に白熱電灯を輝やかせ、欧米からは太平洋の遙かな東（far east）、極東の島国と言われ

た、日本が、短い年月のうちに国中に電気を普及させ近代国家へと脱皮して行った。電気実用化9年後の明治23年(1890年)に、東京電灯の藤岡市助が上野公園で路面電車を走らせている。

新幹線のコンセプトは、数多くの多種多様な優秀な技術者、それぞれの創意工夫で支えられている。一方、新幹線を50年間にわたり、大きな事故もなく運行されてきていることは、線路保守、信号保安、運転等の現場第一線社員全員の堅実な業務遂行があつてのものである。

蒸気機関車の製作も、電気の普及も、新幹線の実現も、それを可能としたのは、いずれも、すでに発明され生み出された技術を、まず自分達のものにし、さらにはさらなる高みを目指しての絶えることのない改良・改善が進め続けた技術集団の存在が大きい。

その後、電気にしろ、鉄道にしろ、改良改善された設備・施設が、予期せぬトラブルを乗り越えて、永続的に無事に維持されているのは、日々、現場を支える層の厚い数多くのスタッフが存在し、ひとりひとりが、それぞれの役割を黙々と果たしているからでもある。

なぜ、それが可能であったのか。日本人の勤勉実直さによるもの、とよく言われる。世界各地、どこの国でも、誰しも一生懸命働いているはずだ。どうして、日本で、特別な勤勉実直さが培われたのか。

よくは分からないが、筆者なりに考えてみた。

日本人は農耕民族であり、気候は四季の変化とともに変わる。そのために作業も四季の変化とともに変わる。例えば、稲作では、春先の田起こしから、水路の整備、田植え、田の草取り、収穫、脱穀と続く。

また、地震、津波、さらに四季折々の豪雨、台風、豪雪、干ばつ、等の災害も多く、その備えをもせねばならない。

とても一人で対処できるものでな。どうしても、地域での共同作業となることが多い。それだけに、地域で生きて行くためには、ひとり一人が、こつこつとそれぞれの役割を果たすことが求められる。同時に、各人の能力アップも求められ、読み書き算盤から学校教育に力が入られることになる。その結果、「私よりも公」との意識が強く植えつけられてきたのでは、と思われる。

また、日本には有史以来奴隷制度がなかったことから、民族がほぼ均一化されていること、同時に、農耕社会だけに自然神を尊び、一神教の世界でもなかったことから、階層間の交流はゆるやかに行われ、人材が幅広く用いられ、多くの人々に、自らの能力を発揮する機会が与えられたのでは、とも思

う。

一方、年々の四季の変化の中で、新緑が芽生え、花咲き、紅葉となり葉が散って行く有様を目にし、多くの日本人は、「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり」、「行く川の流れは絶えずして」と無常観を感じ、時の権力に左右されず、自らの分に依じて、その中で、地道に生きることが賢明、と考え行動してきたのではないだろうか。

これら四季への対応にはじまる諸々のことが作用して、日本人の勤勉実直さが形つくられたものとする。ただ、行き過ぎると、村八分という言葉に象徴されるような、異端を受け入れない閉鎖的なムラ社会をつくり出すおそれがあるとも言える。

如何、皆様、お思いでしょうか。

「これが解明できれば、文化人類学者だよな」と、ふっと思った。

(平成 26 年 12 年 29 日記)

東海道新幹線50周年

鉄道新世紀の開幕 ―そのとき私は―

高橋 育郎

1964年(昭和39)10月1日 夢の超特急東海道新幹線が開業した。そのとき私は国鉄関東支社の広報マンとして、この新幹線のPRに当たっていた。前年の4月にこの仕事に就いたが、世紀の新幹線とあって、目の眩む

ばかりの光の中に立たされた思いがした。

着任して間もなく小田原市鴨宮に試運転区間が設けられ、鴨宮基地と呼んだが、ここにPRモデルコースを設定して、試運転車両の試乗会を行った。

ここには、各界各層の人を一度に3~40人招待し案内した。試乗会の当日は丸の内国鉄本社の一階、正面玄関左のPRコーナーに招待客は集まった。私は案内人になった。

招待客はその都度、対象を決める。マスコミ関係者。学校の先生。漫画家。落語家といった社会的に発言力が備わった階層である。私は集客に当たり、たとえば、落語家の場合は、上野の鈴木を訪ねた。

とにかく夢の超特急には、皆、嬉々として乗り込んだ。そして走り出すとスピードに合わせてメーターが上がり出し、時速250キロに達すると、万歳の声が高鳴った。

招待客には記念品を贈呈することになった。品物はネクタイピンとカフスボタンと決まった。そこで私はデザインを頼まれた。注文は新幹線の走る姿だ。カフスボタンは0系新幹線車両の前頭部、いわゆる光る「鼻」だ。これを桐の小箱に収めたもので好評を博した。私はそれを記念に一つ頂いたが、20年ほど前になくしてしまった。

いよいよ10月1日のその日を迎えた。前日は準備のため、超多忙の時を過ごし、仮寝のまま早朝から緊張の連続だった。私はそのとき29歳。

東京駅の新設なった長大なホームは早朝から多くの人で賑わっていて、異常に興奮した雰囲気醸し出していた。ホームの前頭部には、出発式に備えてくす玉が下がり、テープカット用の台が置かれた。

6時発の、ひかり1号がホームの定位置につくと興奮状態は最高潮に達した。

くす玉の位置から5メートルほど離れたところに新聞放送各社の報道陣が半円形になって陣取った。私はほぼ中央部にカメラを持って立たされたのだ。私は前日に本社広報部から撮影の依頼を受けカメラを手渡された。初めて手にする大型のカメラで、撮り方の手ほどきを受け、こうした役目も手伝って

余計に緊張が高まっていたのだった。

ブラスバンドの演奏が響き渡る中、石田礼助総裁が台上に上がりテープカットをすると、くす玉が華やかに割れ、紙吹雪と鳩が舞い飛び、花火が打ち上げられたなか、警笛を響かせた一番列車、ひかり1号は定刻に万歳の歓声に送られ滑り出した。かたや新大阪駅では同時刻に、ひかり2号が出発したのである。列車がホームを離れると、うしろに待機していた広報部員がカメラを受け取りに来た。

10時から、国鉄本社会議室に天皇、皇后両陛下をお迎えして開業式が行われた。この日を期して、日本の鉄道は新世紀の幕を開いたのである。

私たち広報マンは駅に残って、しばらくはお客様からの質問を受けた。睡眠不足で体は倒れそうになるほど疲れた。だが、美酒に酔ったよう快感もあった。

ところで広報の仕事は、部外向けにはPRのパンフレットを出し、部内向けには管理者向けの月刊誌を発行した。記事を書き、カットを描いて編集をした。更に、このころから徐々に消えて行くSLの哀歓を描いた詞「機関士一代」(交通新聞に寄せられたもの)に曲を付けて、NHKへ送り放送された。

新幹線が運転を開始して、10日ほど後には東京オリンピックが、ファンファーレの響きに乗って開幕したのである。何と輝かしい年であったことか。

その後、新幹線・夢の超特急は文字通り夢の翼を広げるように、無事故のまま、誇らしく全国に新幹線網を張り巡らし、50周年を迎えたのである。

来年3月の北陸新幹線の開業が楽しみだ。あの、開業式の日の嬉々とした興奮を、いま生きいきと思い出すのである。

2014・10
(終わり)

阿武隈川だより

忘れられない元旦

渡辺 成典

昭和40年の大晦日は牡丹雪が降り続いて、路面を白く染めはじめていた。年が明けた初乗務は、磐越東線平行きの始発列車。寝坊しないように枕元に目覚まし時計を4時と4時5分にセットし、手の届かない離れたドア付近にも4時10分のを三つ置いた。9時に寢床に潜った。だが眠気がやってこない。開き直って、一晩二晩寝なくたって大丈夫だとテレビの前に戻った。

大黒様のような宮田輝アナウンサーが江利チエミ、吉永小百合、ザ・ピーナッツなどを紹介し、渥美清や植木などが舞台を盛り上げていた。美空ひばりの「柔」で紅白の幕がとじられると、除夜の鐘が漆黒の闇から流れてきた。「あと4時間しかない。目覚ましのセットは間違っていないか。正月で混み合うから、重くて山越えはできるだろうか。雪での空転は大丈夫だろうか」次々に不安の芽が襲って神経が昂ぶってくる。うとうとしていると、ビリビリーンと目覚まし「起きろ」と告げた。外は短靴がすっぽり埋まるくらい雪が積もって、新聞配達がつくった轍のあとをスーパーカブで機関区に向かった。

途中、磐越西線の踏切を一旦停止しないまま行くと、警官に呼び止められた。私はてっきり「踏切一旦停止違反」の切符を切られると覚悟したが、雰囲気がおかしい。防寒着に襟巻きとマスクで、泥棒のように思われたのだ。「どこへ行くのですか」「これから仕事です。出勤時間が4時57分、遅れると困るので行ってもいいですか」鼻水を垂らし寒そうにしている50代の警官が、時間の言い方を不審に思ったのだろう。どんなお仕事を、免許証も見せて下さいという。機関車の乗務員で、家はその坂道を上がった所です。「ほう、機関士ですか」まさか嘘をつくわけにもいかないので「機関助士です。早い話が石炭焚きです」と応えた。

警官は正直な物言いに警戒心をゆるめ「それはご苦労様だね。お互い人様が楽しむ時に、逆に忙しく働くのも因果なものです」と言って解放された。一刻も早く立ち去ろうとすると「国鉄さんなら、踏切は一旦停止しないとだめですよ」と背中に言葉を投げつけてきたが、違反切符は切られなかった。

職場には17分ほど遅れ、慌ててロッカーでナツパ服に着替え当直の点呼室に向かった。「どうしたんだ、遅れて」鬼瓦のような顔をして助役が言った。年末年始の輸送強化期間は、臨時列車の増発などで乗務員の手配に頭を痛くし、乗務員の協力なしにはのりきえない。

「〇にしておくから、これからは気をつけて」と言った。〇とはマルの呼び名で、17分の出勤遅延はなかったことにするから、安心して乗務せよとい

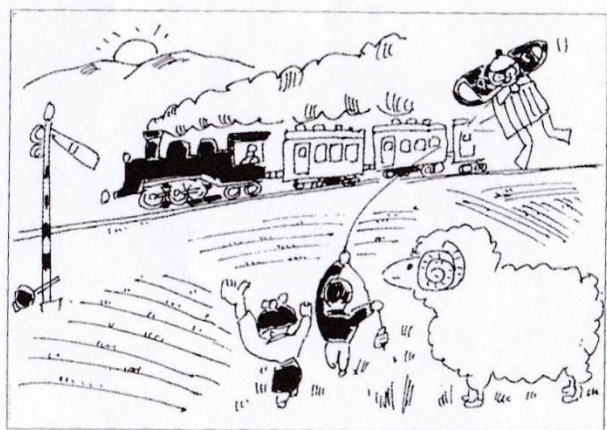
う温情だった。扇型の機関庫に留置されているD6019はピカピカに磨かれ、前照灯から注連縄（しめなわ）がナンバープレートにぶら下げられていた。運転室の焚き口から覗くと、火床の小さな火種を崩して石炭は威勢良く燃え、安全弁の吹き上がる13kg/cm²まで機関士やってくれていた。「すみませんでした。遅れて」「どうした。寝坊したのか」点検ハンマーを片手に、一瞬陰しい目で睨むように言った。その目は、正月気分で自己管理ができない出勤遅延を咎める眼差しだった。

「不審者と思われて、警察の職務質問を受けたんです。近くで泥棒が出たとかで、警戒にあたっていたようなのです」「それならしょうがねーな」と目元を弛ませて言った。

間をおいてから「いいか、機関士と機関助士は夫婦仲以上と言うが、愛馬を忘れちゃいかんべ。今年も無事故で安全運転をお願いしよう」。注連縄の下がった機関車に向かって一緒に頭を下げた。扇型の庫（駐機場）から転車台を渡って、駅の誘導係りの青旗に導かれて6番ホームの客車にガチャンと繋がれた。

ホームの待合室は満杯で、入りきれない人が手土産を持って白い息を吐いて立っていた。出勤遅延したら汽車は動かず、寒空に放置することになったかと思うと責任の重さに押し潰されるようだった。

忘れられない元旦の乗務である。





TEA 悛悛悛悛

悛 或悛悛 廡廡嶰嶰嶰嶰嶰嶰

揀揀揀揀揀揀揀揀

(月刊情報誌「日経トレンドィ」より)選考基準としては

1. 新しい市場:新しい市場を創造する可能性がある
 2. 売れる:売り上げ、販売量が伸びることが予想される
 3. 生活の変化:消費者のライフスタイルが変わる可能性がある
 4. 追随商品:追随する商品が出るなど業界への影響が大である
- の4つによって総合的に判断されたランキングです。

嶰 揀揀揀揀 揀揀揀揀



出典 trendy.nikkeibp.co.jp 食品の新しい機能性表示制度が2015年中に解禁され、野菜や鮮魚などの食品が“効き目”を訴求できるようになる。

嶰 廡揀揀揀揀揀揀揀揀



出典 trendy.nikkeibp.co.jp 海外でも自撮り流行ってるみたいですねー！アジアで人気沸騰中のスマホを取り付けて引きの状態の自撮りができる“セルフィー棒”なるものは、日本でもブレイクなるでしょうか。

<http://rr.img.naver.jp:80/miq?src=http%3A%2F%2Fweekly.ascii.jp%2Felem%2F000%2F000%2F25>

嶰 廡 揀揀揀揀揀揀揀揀



出典 blog.map.yahoo.co.jp 2015年3月に長野～金沢間が開業する北陸新幹線によって、「金沢」、「富山」、「能登」のトライアングル地帯に多くの観光客が訪れ、盛り上がっていくのではないかと予測されている。日帰り観光が可能になる新幹線の登場で、北陸需要が高まりそうです！そして福井……

嶮 麩戩扱搦揀抑



出典 ameblo.jp 今、欧米でお米を原料としたドリンク「ライスミルク」が注目を集めています。今、欧米でお米を原料としたドリンク「ライスミルク」が注目を集めています。お米と言えば、私たち日本人にとっても主食であり、とても馴染み深いもの。ライスミルクは、牛乳や豆乳が苦手な方にも是非とも試していただきたい一品です。

寧 虜 憤或扱拈張抗碱床馱



出典 matome.naver.jp

いわゆるウェアラブルデバイス！かけるだけで貴方の健康状態がわかる。大手メガネチェーンのジェイアイエヌが開発しているウェアラブル端末、「ジンズミーム」が含まれています。かけることで自分の健康状態がわかるのです。目の動きから体調や疲れを分析できるといいます。昨今話題のライフログ・ヘルスケアなど、健康に関する分野に各社参入してきました。今だからこそ、大切な分野であり、大きなビジネスチャンスがある分野でもあります。

嵌 麩 儻 儻 儻 儻 搦 搦 搦 搦



出典 tamagotchi.channel.or.jp たまごっちも遂にネットの時代へ 確かにここ数年盛り上がりが大きくなってきているようです。新しいたまごちは通信機能が拡大されており、お店でDLできるサービスもあり、それがラリーに繋がっている見方も。

窠 虜 托拍搦



出典 trendy.nikkeibp.co.jp 遺伝子レベルから自分に合ったものを選ぶ時代が…遺伝子検査で調べた生活習慣病の発症リスクに基づき、専用のサプリメント販売を行う新事業を11月1日に開始すると発表した。つまり自分専用のサブりが、提供されるということでしょうね。すごい時代来た。

名曲喫茶

関 敦

喫茶店に入り浸っていた学生時代だった。札幌の実家近くに喫茶店がたくさんあり、仲間に音楽好きが多かったこと、クラシック喫茶店「Chateau」の敵なママさんの存在も足繁く通った理由だったはず。半世紀以上前のことなので、残念ながら、そのママさんの顔は思い出せないし、どんな曲を聴いていたのかも覚えていない。コーヒーがおよそ50円、好きなレコードを棚から出して勝手に聴けた、いい時代だった。ところで最近のコンビニでは、煎れたての美味しいコーヒーが一杯100円で飲める。消費税アップの影響もない。鶏卵と同様に、コーヒーは安定物価の優等生かもしれない。



先日、拙宅マンションのエレベーターに次の貼紙があった。「騒音に迷惑されている方がおります。ステレオ、テレビ、カラオケなどの音量にお気を付け下さい」、そして、ご丁寧にマンションの「管理規約」まで付記されていた。以前に「ピアノの音がやかましい」という貼紙もあったので、拙宅のステレオ音量も要注意だ。交響曲や協奏曲は大音量で聴きたいので、隣接した上下階の住人の耳を気にしながらボリュームを上げていた。まだ、直接の苦情はないが、やはり大音量は控えよう。あのカラヤン先生だってヘッドホーンで聴いていたのだから、私も使えばいいのだが、入院時代の軟禁生活を思い出したので、ヘッドホーンは使っていない。

サンデー毎日の現在も喫茶店通いは続いており、最近は一人でぶらりと出かけることが多い。スモーカーだった時は紫煙を燻らすのが、喫茶店通いの目的のひとつだったけど、禁煙に成功した現在、喫茶店の目的は変わった。音楽を聴き、本を読み、そしてぼんやり過ごすためである。「スタバ」、「ドトール」や「ベローチェ」などセルフサービス喫茶店の登場やコンビニの格安コーヒーの普及があり、個人営業の喫茶店が少なくなった。「スナバ」はあるけど「スタバ」が無かった唯一の県、鳥取県にも今年、スタバが進出した。セルフサービス店は繁盛しているけど、いわゆる「名曲喫茶」は、客の入り期待できない上に、長居客が多いので、好きでなければやってられない商売に違いない。



ところで、東京もクラシック音楽を聴ける名曲喫茶が少なくなっただけで、まだまだ残っている。昭和元年開業の渋谷の「ライオン」を始め、阿佐ヶ谷の「ヴィオロン」、荻窪の「ミニオン」や本郷の「麦」、「カデンツァ」などに時々行くが、残念ながら大半の店は紫煙が充満しており、どうしても足が遠のいてしまう。クラシックファンにスモーカーが多いのではなく、昔からの喫茶店が「禁煙」に踏み切るのが難しいのだろう。最近、BGMにクラシックを流している禁煙の店を見つけた。人形町の「高久」と銀座の「ウエスト」はウイークデイの午前中なら客が少なく、静かに音楽も楽しめる。



作曲者の名前を覚えた最初のクラシックは多分、モーツァルトの「トルコ行進曲」だったと思う。1783年に作曲したとされているピアノ・ソナタ第11番の第三楽章がこのトルコ行進曲。モーツァルト直筆の楽譜は生まれ故郷のオーストリア・ザルツブルクに1頁だけ残されており、他は失われたと考えられていた。しかし、昨年のはじめ、ハンガリーの首都ブタペストの国立図書館で残りの頁が見つかり、専門家の鑑定の結果、モーツァルトの直筆と認定された。発見された楽譜は、現在演奏で使われている楽譜とは音やリズムの一部が異なるらしい。モーツァルトはハンガリーを訪れたことがないはず、モーツァルト研究が新局面を迎え、一段と進むかもしれない。

オスマン・トルコ軍による二度にわたるウィーン包囲、当時の強大国だったオスマン帝国に対する恐れと憧れから18世紀の欧州にトルコ趣味が広まった。トルコ軍楽隊の音楽の刺激をうけて作曲したのが、モーツァルトのトルコ行進曲である。ところで、コーヒーもオスマン帝国と縁がある。コーヒー豆の原産地はアフリカのエチオピア、6世紀にエチオピアはコーヒー栽培が盛んになっていたイエメンを侵略。そして16世紀にオスマン帝国がイエメンを占領し、コーヒー豆はオスマン帝国の重要な輸出品となった。そして地中海貿易を牛耳っていたヴェネツィアがフランス、イタリアを始め、欧州全体にコーヒーを広めたのである。

「イスラム国」というテロ集団の狙いはイスラム教連合国家の樹立らしく、狙いは「オスマン帝国」の再建らしく、マホメッドもびっくりのはず。

(2014-12-23)

立てば芍薬座れば牡丹歩く姿は百合の花

高松 泰代

芍薬も牡丹も共に美しい花で、百合は清楚な花であることから、美人の姿や振る舞いを花に見立てて形容することば。

芍薬はすらりと伸びた茎の先端に華麗な花を咲かせ、牡丹は枝分かれした横向きの枝に花をつける。百合は風を受けて揺れるさまが美しい。

これらのことから、芍薬は立って見るのが一番美しく、牡丹は座って見るのが一番美しく、百合は歩きながら見るのが一番美しいという説がある。

また、芍薬はまるで美しい女性が立っている姿のよう、牡丹は美しい女性が座っているよう、百合は美しい女性が歩く姿のようだなど、諸説ある。

単に「立てば芍薬座れば牡丹」とも、「立てば芍薬居（とと）すりゃ牡丹歩く姿は百合の花」ともいう。（ことわざ辞典より）

人生ふりかえり、ありがたく幸せに存じますことは多くございます。

中でもまことに麗しい大和撫子のお三名に出会えましたことは、無上の喜び、‘宝’と思わない日はございません。

亡き父の妹は、九州大分の山の手心地よい住まいを持ち住んでおられました。‘孫たちが受験期になっているから、ここにいるときはのんびりすごせるでしょうよ’と。いくつになっても昔小町と言われたままに正統派の美しい方は、家族のことを思い、家族のためにとさりげなくしかし最上の判断をいつもなさる方でした。叔父が病床に倒れたときは、自宅で最期まで大事によりそって。父の弟が病床に伏したときも、‘大切な弟が、’と胸の中の涙を緩やかな笑顔に変えながらつぶやかれました。

昨年秋、従兄より訃報の知らせが届いたのでございます。九十九歳。お年賀でいただくお写真は変わらず、目元涼しい聡明な美しい方。

芍薬の花のように。

亡き両親が親しくしていたご夫妻は、初めておめにかかったころ東京杉並にお住まいでいらっしゃいました。広い芝生のお庭に建築家設計とおもわれるシンプルながら洒落たお住まいは、飾らぬ知性のお二人にこそと思えるものでございました。女優のように背筋のキリッとした叔母様は、車を自由に乗りこなし、よくいろいろなところに連れて行ってくださいました。

上京したおりに泊めていただきましたが、人の思いなど考えないわがまま娘の私、広い和室に休み、目が覚めるとダイニングへ。すでにご家族はおでかけのよう。叔母様と気持ちのよい朝食のひと時を過ごしておりました。

食後のお片付け？した覚えはございません。夜はお庭にひろく開かれたリビングで……何をしておりましたのでしょうか？叔母様のピアノとお歌を伺った

かと思います。叔母様は静かにお話になり、‘ファッションは10年でめぐってくるのよ’とにっこりなさりながら、他の方とは一味違う姿で外出なさっていらっしやいました。地味というのではないのは、どこにいらしても、人の目をひく華やかなものをいつもおもちです。
薄い色の牡丹の花のように。

高松の家に嫁ぎますと、ご両親と同居。家事一切何も存じませんでしたから、同居ということではっと致しました。荻窪の家は平屋で南には一面の芝生、奥に樹木草花。新婚夫婦が一番広く居心地のよいお座敷と夫の書斎の二部屋をいただきました。朝食が終われば男方はいなくなります。当時でございますから若いお手伝いの方と女三人で日中過ごします。義母は新聞のテレビ欄に印をつけて、時間になるとお茶の間で一緒に。日々の生活の大部分はお食事の準備。お料理がお得意な義母はお献立を考え、買い物はたぶんお手伝いの方がしてくださったのでしょう。その頃は御用聞きが来ましたので、決まった買い物はそれで。晩御飯のお仕度は楽しいものでございました。味付けはプロの義母に習いますが、なかなか‘これでよろしいでしょう’と言われるまでにはなりません。日本画の美人が抜け出してきたとしか思えない細く背の高い義母がえり善の着物にゆるりと身をおき‘出かけてきます’と銀座へ。

嫁いできた私のすることなすことは、義父母にとって大変な異文化であったのでございましょう。知性とは素敵なものだと思いますのは、ひとつひとつの異文化について義母はお茶のひと時に‘こういうことなのだけれど’とわかりやすく、温かくお話してくださったのでございます。急がず、ひとつ一つゆっくりと。

ある年の暮近く、いつものように銀座へお出かけになられ、翌日病院へ。お医者様からお電話をいただき伺うと‘心臓が弱っておられます。お覚悟を。’泊込みで一緒にいたしました。年末、お正月のお料理も合間をみて作り、‘召し上がって’美味しそうに朝食なさいました。(その頃は義母のお口にあうお味付けができるようになっておりましたのでしょう)

朝日がやわらかく病室のベッドの上の義母を輝かせていたのが昨日のよう。その日の午後ほんの数時間自宅に帰っているとき病院よりお電話。‘つい先ほど……’最後まで、楚々と美しく。

百合の花のように。



大和撫子お三方の麗しさは

- ⊗ 決して愚痴を言わない
- ⊗ 決して噂話をしない
- ⊗ あふれる家族への愛情を、しずかに心の中で育て人に押し付けない
- ⊗ 言うべきことは、分かりやすい言葉で心を込めて 直接に。
- ⊗ 絶対に正直。
- ⊗ 好きと嫌いがはっきりとありながら、すべてを受け入れる心と行動
- ⊗ 外見も内面も美しい見事に自立した女性。

水谷 謹人

1999年に映画「鉄道員（ぼっぼや）」を観た。当時、主演の高倉健さんは68歳だった。2005年、中国との合作映画「単騎、千里を走る」のときは74歳だった。

いずれも遙か昔に観た「幸福の黄色いハンカチ」の頃の健さんと変わらないように思えた。「この人は老いを感じさせない人だな」とずっと思っていた。

一昨年観た「あなたへ」に出ていた健さんは81歳。さすがに老いを感じたが、それでも昔と変わらないオーラがあった。

俳優や女優は見られてなんぼの世界だ。年齢相応な役柄を演じることがあっても、演技そのものに「衰え」を観客にかんじさてはいけない。そんな鉄則があると聞いたことがある。

だから美しいまま、若くして引退する女優もいる。それも一つのプロ意識だろう。たとえば原節子さんは42歳で引退した。

吉永小百合さんも原節子さんのような道を選ぶべきか、思い悩んだ時期があったと、とある雑誌で語っていた。

しかし、その思いは同じ42歳のときに会った「映画女優」という作品で変わった。「田中絹代」という大女優の半生を映画化した作品だ。歴史上の人物を演じるならまだしも、田中絹代さんは、当時はまだご健在で、しかも、小百合さんが駆け出しの10代の頃から共演させていただいている雲の上の人だった。

「田中絹代」を演じることにたじろいだが、監督に説得され、主役を引き受けた。「田中絹代」という女優は、たとえば、49歳のときに「楢山節考」という映画で老婆の役を演じたとき、健康な前歯を4本も抜いて臨んだ。また別の役では年老いた感じをだすために撮影の間中、ゴムで腕をきつくしばり、血管を浮き上がらせた。

晩年は病気で視力が衰えたが、ベットの上で「目が見えない役がこないかしら」とお付きの人に語っていたという。

そんな「田中絹代」を演じながら、小百合さんは、「自分も一生映画女優として生きていこう。残酷なまでに老いをさらけ出していこう」と決意したそう。

「若い」ということには限界があるが、「若々しい」ということには限界がない。挑戦すべき何かをもっている。誰かのお役に立っているという「役立ち感」そんなものがある限り、人は老いることを忘れてしまうのではないかと思う。

さて、広島県で町おこしをやっている和田芳治さん(71)が講演の中で、いつまでもイキイキと若々しく活躍する秘訣を語っていた。それは「きょう

よう」と「きょういく」なのだそうだ。すなわち「今日、用がある」「今日、行くところがある」という意味である。

「もっと言うと、お年寄りをこき使うんです。動かすんです」と。

和田さんは仲間と30年も前から、まちおこしのための「過疎を逆手にとる会」や里山暮らしの知恵を研究する「人間幸学研究所」、高齢者を動かす「高齢者志民会議」など、ユニークな活動をやってきた。

「志民」とは、「志を高く掲げ、その具現のために持てるものを出して、喜んで汗する人」のことをいう。「志民」になると「役立ち感」が手に入り、イキイキとしてくるそうだ。逆に「自分一人ぐらいやったってどうせ何も変わらない」と言って何もしない人を、和田さんは「死民」と呼んでいる。

和田さんが街づくりのものさしにしているのが、「笑顔」と「打てば響く人間関係」だ。

「あなたの周りに笑顔の溢れている人はいますか？」と問いかける。「いません」と言う人に和田さんは言う。「決め手は、あなたが先に笑顔溢れる人になること、あなたが打てば響く人になることです」と。

「幸せとは自分を磨いて能力を高め、その能力を使って社会の役にたつ働きをしてお金をもらって生きていくこと。それが自分の人生の主役になるということです」

究極のところ、人生は劇場であり、人はみな、「自分」を演じる役者なのだ。老いを忘れるほどの名優になって、「きょうよう」と「きょういく」に心掛けよう。

2014年12月1日みやざき中央新聞より

人形あれこれ

藤原 昌子

断捨離続行中である。二度の海外転勤から戻って後で整理とばかり取り敢えず屋根裏に積み上げてしまった。いよいよ今やらねばの整理の時期がきて段ボールなど開けては下ろし、おろしては開けている。後回しになっていた納戸にとりかかり、頑丈なトランクを開けるとびっくり、人形がでてきた。横になっていたのを抱き起すと目をパッチリと開けた。鮮やかな赤のドレスにエプロン、レースの大きな帽子、多少色あせもあるが、まるで眠り姫のごとく長い年月横たわっていたことになる。はるかな昔しばらく単身で欧州に行くことになった夫に何か欲しいものがあればと言われて何も思いつかず、香水ぐらいにしておけば簡単だったのだろうが、なにげなくじゃ、フランス人形でもといったのを生真面目に覚えていて、探して求めてきたものであった。“あのね、フランス人形というものはなくて、これは地方の民族衣装の人形なんだけれどこれでよかった？” 今だったらパソコンや写メで確かめることもできたのでしょけれど。現地で誰に聞いたのか想像するだにおかしく気の毒やら申し訳ないやらであった。折角だから、いつかきちんと定位置を作ってあげようと思っていたのだが、いい場所が見つからず、またもや取り敢えずトランクにしまったのだと思う。ところで、日本人形というふうつうどのよう人形になるのだろう。市松人形、博多人形、京人形、こけし？ やはり一人一人思い描くのは違うことだろう。



フランス人形については面白いので引用を少々。

日本におけるフランス人形：日本では、第一次世界大戦でヨーロッパの人形生産が滞ると、ビスク・ドールを模倣したものを生産して海外に輸出したが、国内では、一部上流階級や富裕層以外は外国製あるいは外国風の人形を玩具や調度とすることはなかった。第二次世界大戦後、経済が復興して国民生活に余裕ができ、またアメリカ文化の強い影響により洋風化が進み、西洋風の人形を部屋に飾る事も当たり前になったが、一般には、フリルやリボンなどの装飾を多く用いたローブ・デコルテを着けたものを、生産国に関係なくフランス人形と言うようになった。実際には欧米で作られたものは、その顔立ちなどが必ずしも日本人の好みに合うわけではなく、日本でフランス人形として流通している、ややあどけなさを加えて日本人の嗜好に合わせたものの

大部分は日本製であったと言ってよい。子供の玩具として用いられる事はなく、部屋の調度品とされる。また、フランス人形の顔立ちや、古くから作られたということから、よくホラー漫画や映画に登場し、呪いの象徴として使われることも少なくない。

昭和初期のフランス人形：昭和初期のフランス人形とは、プレスされたマスクに顔を描き入れ、胴体や四肢を組み付けてドレスを着せたり飾りを付けたりのものであり、フランス人形と命名したのは中原淳一とされる。命名については、1932年（昭和7年）中原淳一が自ら作成した人形の初覧会を銀座松屋で行うにあたり担当者と相談して決めた。ただし、フランス人形という言葉自体は童謡「おもちゃのマーチ」で既に歌われていたが、具体的な形状は知らなかったという。この頃のフランス人形は主に自分で作成するものであり、『少女の友』『主婦の友』などで作成記事が掲載されることも多かった。



ロンドンから帰るときいくつか陶器の人形をお土産用に求めた。母に一つ贈ったが、ずっと飾り棚に飾っていた。その母もなくなり今は私の手元にある。時計をはさんだ二つの人形を見るといつも心がなごむのである。

チューリッヒでは日本人の奥様方の中で人形を作るのが流行っていた。顔、体、手足、服、帽子、靴などすべて手作りだそうで、小物は一つ一つ選んで時間もコストもかけて皆さん作られていた。根気がいいそうで仲間入りは遠慮していたが器用な人がいるもので、いくつも作ってそのうちの一つをくださった。もう一体は何故あるのか分からないがずっと二体一緒にいる。



海外旅行によく行っていた夫の母が集めたものの一つ。アルペンホルンを吹いている姿が素朴で味がある。お気に入りの木彫り人形である。

長男が誕生した時のお祝いに両親の知人から贈られたもの。息子は四十代後半。そんなに年月が経ったなど本当に信じられない思いである。この鯛引き、息子のお連れ合いが気に入ってくれたので嬉しくプレゼントする予定である。



サウディアラビア訪問記 (5)

藤井 能成

2 度目のサウディアラビア訪問は最初 1 月に訪問した年の 12 月であった。乗継ぎで一泊するドバイに降りて夜遅くホテルに向かうバスに乗った時、海風が運ぶムツとする温かい空気と空港ビルの前は 11 カ月前と全く同じような夜の景色に見えた。しかし、街なかの通りに出た時、煌々と輝く今まで見たことのないようなイルミネーションに目を奪われた。イスラムの戒律が守られているアラブ首長国連邦のドバイで、クリスマスを楽しむ盛大な飾り付けを見るとは全く思ってもいなかった。

リヤドは、勿論、クリスマスを楽しむものは全くない別世界であった。数日後リヤドからジェッダに向かった。ジェッダはサウディアラビアで最も世界に開かれた都市であり、欧米から来る人も多い街であると聞いていたが、聖地メッカの玄関口にあたるこの街もリヤドと同様クリスマスとは無縁の街であった。

前は到着後予約のキャンセルを知らされ、急遽宿泊先を変更したインターコンチネンタル・ホテルであったが、二度目のこの時は無事泊ることができた。ジェッダの 1 日目は前回許可が取れず実現しなかった RO 法海水淡水化設備を見学して、翌日は午前中に工科大学を訪問し研究設備を視察、午後ジェッダを後にした。

ホテルは王族が利用するだけあって豪華であった。写真①は吹き抜けのロビーの階上から見たカーテン越しの日に光る、大理石を贅沢に使った床である。イスラム独特の様子が嵌め込まれている。写真②の左手が、王族が利用する建物だという。ホテルは広い臨海公園の一面に立地していた。

ジェッダの海淡水設備には、当初、米国のデュポン社の中空糸型膜モジュールや UOP 社のスパイラル型膜モジュールが使用されていた。しかし、膜性能と耐久性に優れる東洋紡の三酢酸セルロース (CTA) 系中空糸型膜モジュールに三菱重工によって置き換えられた。RO 法で先行していたデュポンはこの時にはすでに海淡水事業から撤退していた。

サウディアラビアの都市は、内陸部のリヤドは勿論、ペルシャ湾沿いのアルジュベールやダーランなど殆どがオアシスの周りの集落から発展した都市である。ジェッダでは雨水を地下に貯留して飲料水にし、あるいは近くのオアシスから水を



得ていた。河川のないサウディでは近代的都市が必要とする大量の淡水を得るのは不可能であった。

しかし、大規模な油田が発見されて石油産業が興り、石油精製などの工業化が進むと都市も急速に近代化された。石油精製には電力が必要であり、発電に必要なボイラー用純水は海水から蒸発法



で製造されるので、同時に都市用水も供給されるようになった。蒸発法は完成された技術であったが、発電と組み合わせて経済的に淡水を得る技術であるため、造水量を発電量から切り離して自由に調節することが難しい。これに対してRO法は必要エネルギーが少なく低コストであると同時に、電力だけで駆動され、造水量を自由に調節できるという特徴がある。しかし、SWCCが世界に先駆けてRO法を導入した当時、RO法を超大型海淡設備に採用するには大きな技術的リスクがあった。他方、巡礼で世界中から200万以上のムスリムがラマダーン月に集まるジェッダでは、水と電力の需給のバランスが著しく変化するという事情がある。ジェッダのRO工場長は発電量と造水量とのバランスをとるためRO法を採用したと話していた。大きな技術的リスクがあったとしても、水より安い石油で電力を供給できるサウディならではの選択であったと言えようか。

翌日訪問した工科大学では彼らにとって最新鋭の分析機器等を見学した。目玉は核磁気共鳴スペクトル測定装置(NMR)であったが、日本であれば学生実験用レベルの装置であった。KACSTの研究設備も、日本の研究者が持ち込んだ設備を除くと、多くが初歩的な実験装置のように思えた。かつて繁栄を極めたイスラム文化を支えて世界の科学技術をリードしたような時代が再び来るのだらうかと思いつつ、研究室を見てまわった。

これまで屋外で写真を撮影することの是非について通訳の人らに尋ねた限りでは、撮影してはいけないと言う法律は無い筈だ、という返事であったが、このホテルのコンシェルジュならばもう少し適切な注意をしてくれるだろうと思って聞いて見た。その結果、ホテル内や屋内であればかまわないが女性がいたら控えた方がよい、屋外では撮らない方がよい、ということであった。

早朝、海岸の公園に出ると多くの人達が釣りを楽しんでいて。通りかかった時にハタのような大物を釣り上げた青年がいたので、声をかけて写真を撮らせてもらった(③)。大きな魚が釣れた時はレストランに持って行って買って貰うという。海面を覗くと小魚が多数群れていて、大方の釣り人達はパンクズを餌にしてこの小魚を釣っていた(④)。海外の学会に参加する時には釣り道具



を常に携行するというO教授は、今回は砂漠の国だからと持たずに来たことを大変残念がっていた。

自由時間にはタクシーを拾って旧市街に出掛け土産物などを探した。街なかを流しているタクシーの運転手は我々が日本から来たことを知ると親しげに話しかけて来るのでいろいろと聞いて見た。

タクシーには日本からの中古車が多く使われていて、運転手はイランなどイスラム圏の国々からの出稼ぎであるという。サウディで働いてお金を貯めたら次は日本に行ってみたいと言っていた。コーランはアラビア語で日常生活の規範を説いており、暗誦しているので、イスラム圏のどこに住んでも言葉には困らないとも言っていた。勿論、外国語を覚える才能も豊かなようである。

同行者には今回初めてという人達が数人いたので、1月の時に親しくなったゴールドスークの店を案内した。お店の兄弟は1年前のことをよく覚えていてくれた。微生物学のK先生の一件があったので印象に残っていたのであろう。前回と違ったことは、夕方のお祈りの時間になっても客を店の外に出すことなく、祈りの時間が終わるまで扉を閉めて商談を続けるようになっていた。もう一つは、店のショーケースを覗き込んでいたところ、後ろから上着の裾を引っ張るものがいたので振り向くと3~4歳位の女児であった。店の人の方に目を向けると、入口で覗きこんでいるアバーヤをまとった女性の所に行って小銭を渡し、子供を連れて行くように話した。子供はそのことを理解できないのかなかなか立ち去らなかった。喜捨の習慣があるので乞食はいないと聞いて来たが、見掛けではそれと分からない物乞いはいるようである。明るいうちに街なかで見かけた唯一人の現地の女性でもあった。

ホテルの近くには隣接した魚料理のレストランや大型のショッピング・センター（SC）があった。レストランにはボイルしたかなり大きなハタのような魚が大皿に置かれていた。客が各々自分で取り分けるのであるが、魚料理になれていないためか無残な姿になっていた。このレストランにはビールの小樽があったので注文したところ案の定ノンアルコールビールであった。しかし、PEC 中東事務所長氏は樽詰めノンアルコールビールは珍しいと喜んでくれた。食事を済ませ一休みして夜十時頃、所長氏に誘われてSCに行くと、日没前には見掛けなかった黒いアバーヤに身を包んだ女性達が子供や家族を引き連れて大勢散歩や買物を楽しんでた。

写真⑤は旧市街の地元の人達の入るレストランで食事した時の料理である。中東独特の平たいパンと羊の肉の料理、スープと地元のミネラル水であったが、味はなかなか美味であった。そのレストランの棚には様々な種類のピクルスの瓶が並べられていた（写真⑥）。



ジェットダを発つ時、我々を載せたタクシーの運転手はターミナルビルの前に着いてしまってから、そこが国内線用であることに気が付いて慌てて国際線ターミナルビルへ戻ろうとした。両空港の間には広大な敷地が広がっていて10分以上掛ったような気がして、はらはらした印象が残っている。ターミナルビルにはアラビア語の案内だけしかなくて少しまごついたが、何とか間に合い、搭乗手続きを済ますことができた。ほっとしてカウンターの前で仲間の手続きを待っていると、浅黒い髭の男に呼び止められた。ドキッとして相手を見ると、なんと金細工の店の兄の方だと名乗る。白いタウブでなく洋服姿の彼を見るのは初めてだった。どうしてここにいるのか尋ねるとロンドンに行く所だと気軽に言う。彼らが英語に達者な訳を知ると同時に、この人達には砂漠の先の国内都市よりロンドンの方が近いのかも知れないと思った。



帰路のドバイ空港では待ち時間があったので土産売場などを見て回った。ライカやニコン等の高級カメラ、電化製品、キャビア、洋酒等の他、デザートや中東の菓子類、紅海のダイビングや魚類に関する本などが並べられていた。ここで目についたのはロシアからの買い物客の一団であった。安くて品質のよい日本や西側の電化製品などを買って持ち帰るのだという。搭乗間際に厚い毛皮のコートを取り出し夏服の上に羽織って飛行機に乗込む姿を奇異に感じながら、彼らの帰る先が厳寒の冬のロシアであることを思い、そして彼らが帰る地が意外に近いことを知った。

ドバイ空港の2階の待合室のバーカウンターの前にはピアノが置いてあった。夜8時になると若い女性が現れてピアノ演奏を始めた。我々はカウンターでつまみを買ってアルコール入り(!)ビールを注いでもらって1週間ぶりに喉を潤し、その後は地下の土産売場で買って来たナッツやブランデーなどをピアノ近くのテーブルに広げて演奏を聴きながら、遅延してさらに遅く到着する飛行機を待った。

つくしくらぶ ―活動の経緯と理念―

我が国は、自国語の日本語によってほぼ全ての日常生活が完結され得る国です。それだけに来日した欧米ビジネスマンの多くにとって、国際都市東京に於いて英語がほとんど役に立たないことは大きな驚きであり、また自らは、“読めない、聞けない、書けない、話せない”の四重苦に陥る現実に愕然とします。日常生活やビジネスのやりとりの中で非常に異なった価値観、いわゆる 異文化の世界の中で途方にくれ、不本意な思いで帰国する事例が多くみられます。その背景には、歴史伝統からの文化慣習の差による 異文化の壁があります。

平成 11 年来、英語でコミュニケーションのできる家庭婦人達が集まり、業務で来日生活する外国人及び家族が遭遇する文化慣習の違いから生ずる諸問題の解決を目的として、「つくしくらぶ」の名で支援活動を行ってきました。

“つくしくらぶ”の名は、“(人に)尽くす”との意味を込め、同時に、雪解けの春の野に顔を出し“自ら伸びやかに育つ”土筆の姿を思い描いています。

異文化は、なにも国と国との間にだけあるものではありません。同じ国の中にも、個人どうしの中にもあります。文化はどちらが正しく、どちらが悪いというものではありません。それぞれの正しさを主張しあうところに紛争や憎しみが生じがちです。それゆえ、私どもは、お互いが相手との違いを理解し、その違いを尊重し合うことこそが、相互理解を可能にするとの考えで、これまで活動し、これからも活動してまいります。

これらの活動を明確に位置づけるため、内閣府に特定非営利活動法人としての設立申請を行い、平成 18 年 9 月 5 日、その認証(府国生第 859 号)を取得しました。

また、これを機会に、国内外のビジネスや技術開発など、長年業務に携わった経験豊富な方々の知恵や工夫をも活動に生かして行くこととしています。



平成 27 年 1 月 (第 9 卷 1 号) 貝坂倶楽部

発行所 NPO つくしくらぶ出版

102-0093 東京都千代田区隼町

2-12 藤和半蔵門コープ 801

email tpine304@nifty.com